

# 「物忘れ」になる病気には 30以上あることをご存知ですか？ だから専門医の診断が必要なのです。

(ご家族が記入してお持ちください) 受診する方のお名前

認知症の方が病院に受診するまで、平均2年が経過している、というデータがあります。「年だから～」という理由で見逃しているとお薬や手術などの治療が可能なゴールデン・タイムを、無駄にしてしまうことも、。早目に受診していただき、ご家族から「以前は落ち着きがなく、怒りっぽくなり、何事もやる気がなかったのが、今は表情がとても穏やかになり、孫の面倒を一日中見ていることもできるようになりました。」などと喜びの声を頂ければ、私にとっても最高の瞬間です。そこで、ご家族の四大認知症を、1分間でチェックできるシートを作成しました。☑をつけてください。1.2.合わせて3つ以上あてはまるようなら、認知症の可能性がります。

おかしいなと思ったのは、どれくらい前からですか。ひどくなってきた時期ではなく、少しでもおかしいと感じた時期です。

年  ヶ月前

1. 物忘れの症状
- 5分前と同じことを言ったり聞いたりする
  - 電話の伝言ができない
  - 置き忘れやしまい忘れが目立つ(いつも探し物)

2. 物忘れ以外の症状はありましたか？

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <input type="checkbox"/> 怒りっぽくなった            | ⋮ | <input type="checkbox"/> 転びやすい                   |
| <input type="checkbox"/> 被害妄想(財布・通帳を盗られた)    | ⋮ | <input type="checkbox"/> とても生々しい幻視がある(虫や人)       |
| <input type="checkbox"/> 物忘れを認めない            | ⋮ | <input type="checkbox"/> 物忘れが日によって良くなったり悪くなったりする |
| <input type="checkbox"/> 落ち着かない              | ⋮ | <input type="checkbox"/> 大声で寝言を言う                |
| <input type="checkbox"/> 趣味・家事をしなくなった(意欲が低下) | ⋮ | <input type="checkbox"/> 言葉の意味がわからない(天井って何?)     |
| <input type="checkbox"/> 冷蔵庫の中が同じものでいっぱい     | ⋮ | <input type="checkbox"/> 衝動的な行動をとる(突然歌い出したり)     |
| <input type="checkbox"/> 献立がいつも一緒            | ⋮ | <input type="checkbox"/> 同じ行動を続ける(時刻表のような生活)     |
| <input type="checkbox"/> 慣れたところで道に迷う         | ⋮ |  |

認知症とは、物忘れや理解力の低下が少しずつ進行すること。その原因は、いわゆるアルツハイマー型認知症だけではありません。半数以上は、ほかの病気が原因であり、中には手術や薬で治るものもあります。だから原因の特定は大切。まずは進行のスピードと、動きにくさなどほかの症状との組み合わせで考え、さらに検査を追加することで、正しい診断がつかます。

※裏面もご覧下さい

脳検査・治療センター 頭痛・「物忘れ」診療



## 白鳥内科医院

ご予約は ☺  
お電話にて今すぐ



時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日	祝
午前8:30~12:30		○	○	○	休診日	○	○	○	○
午後3:30~6:30		○	○	午後休診	○	○	午後休診		

〒430-0814 浜松市南区恩地町192番地

☎053-427-0007

●診療受付時間 日曜・祝日診察(木曜・第5日曜休診)

# 悪化のスピード×症状の （物忘れだけでなく、動きにくさも） 組み合わせからわかる認知症

## 認知症の原因

### 血液検査でわかる認知症（まれだが、必ず1回は血液検査を）

- ◇甲状腺機能異常……………多くは低下症が原因。投薬で改善
- ◇ビタミンB欠乏……………栄養障害・胃手術後・アルコール多飲。補充で改善
- ◇神経梅毒……………血液検査で梅毒が疑われたなら、髄液検査も。抗生剤で改善。HIVとの重複感染もあるようだ
- ◇低血糖発作……………糖尿病薬やインスリンの不適切・間違えての使用。適切な使用を指導

### 血液検査ではわからない認知症 **これがほとんど**

#### 1日～1週間で進行

- ◇せん妄状態……………一時的な混乱・注意力の低下、しばしば認知症に併発；入院・施設など環境の変化、脱水、お薬の副作用。原因を取り除き、投薬で改善
- ◇辺縁系脳炎……………かぜ症状に引き続き、支離滅裂・幻覚・記憶障害・意識障害、けいれん発作をとまなうことも
  - 単純ヘルペス脳炎 抗ウイルス薬に効果あり
  - 卵巣奇形腫関連傍腫瘍性脳炎 卵巣奇形腫のある若い女性に好発。診断には特殊な血液検査が必要。免疫療法で改善
  - 傍腫瘍性辺縁系脳炎 これがかきかけで肺癌が見つかることも
  - 全身性膠原病合併脳炎

#### 1週～月単位で進行

- ◇脳腫瘍……………CTでほぼわかる
- ◇中枢神経原発リンパ腫……………わかりにくい。ブドウ膜炎で、片側視力の急な低下が初発症状のことも
- ◇クロイツフェルト・ヤコブ病……………迷子になる・ふらつく、ヒトの狂牛病。日本では、脳の手術を昔受けた医原性も多い
- ◇クリプトコッカス脳炎……………首が固くなる、髄液検査が必要。抗真菌剤で改善
- ◇エイズ[HIV関連]認知症……………病識=自覚がある、集中力低下・無関心。海外では若い方だけとは限らない。日本での実態はまだ不明
- ◇進行性多巣性白質脳症……………AIDSにとまったり、免疫抑制剤使用が原因。特効薬がある
- ◇多発性硬化症
  - 慢性硬膜下血腫……………お酒を飲む50歳以上の男性に多い。早目であれば手術で改善

#### いつの間にか進行【気が付いたらおかしい、久しぶりに会った家族に指摘された】

##### 認知症以外に、「歩きにくい、不器用になった、動きが遅い」などの症状をとまなう

- ◆脳血管性認知症……………階段状の悪化・脳卒中の病歴・片麻痺・パピンスキー徴候・強制泣き=なんらかの刺激でおいおい泣く、男性に多い、多くの場合アルツハイマー病を伴う、CT・MRIで診断。脳梗塞の治療・予防
- ◆レヴィ小体型認知症……………物忘れより、変動する“うとうと”主体・生々としたしつこい幻視=虫やいないはずの人が見える・転びやすい・体が固い・大きな寝言、比較的女性に多い。パ病のお薬や、少量のアリセプトに効果があり。逆に幻覚を抑えるお薬を不用意に使うと、かえって悪化します
- ◇パーキンソン病にとまなう認知症……………動きだけでなく、思考がゆっくり。忘れたところに正答。レヴィ小体型認知症との違いは不明で、ほぼ同じと考えられる
- ◇進行性核上性麻痺……………パ病に似ているが薬が効かない、転びやすい・特に首が後屈して体が固い・眼球が上に行かない、MRIを縦切りでよく見ることが有効=転びやすさから、正常圧水頭症と誤診され不要な手術を受けることがある
- ◇皮質基底核変性症……………パ病に似ているが薬が効かない、左右で差がある不器用さ=手袋がはめられないなど・言葉が出にくい・体が固い
- ◇三山病……………筋肉の萎縮をとまなう
- 正常圧水頭症……………集中力・意欲・自発性の低下=ぼーとしていて、すり足・特に方向を変えるときにふらつき、尿失禁を伴うことも、高血圧の人にやや多い、MRIをよく見ることが有効=脳室が拡大し、脳溝が狭くなる。ために髄液を抜いて良くなれば、手術で改善

##### 「うつ」症状をとまなう

- ◇うつ病……………「できない」「わからない」と自ら訴えるが首相の名前はわかる。「眠れない」と執拗に訴える。CTは正常。抗うつ剤で治療

##### ほぼ認知症のみ

- ◆アルツハイマー型認知症……………わからないと言いつくろいをする。日付がわからないと「カレンダーを見ないから」、首相がわからないと「新聞を読まないから」など。3分前のことは忘れるが昔のことはよく覚えている。やや女性に多く、特に母親から遺伝。いくつか新しいお薬がでて、治療に選択肢が増えました。問題行動にも、お薬だけでなく、対処のコツがあります
- ◆前頭側頭葉萎縮症……………「物忘れ」というよりも、行動や言葉の障害。発症は65歳以前、ただしとてもゆっくり進行するので、診断されるのは65歳以上のことも多い。自分の病気には無関心。半数は遺伝。行動の異常には、ある程度お薬に効果が
  - 前頭側頭型認知症 社会生活上の問題行動【衛生に無頓着・迷惑行為・無銭飲食・窃盗】注意されても反省しない、無表情、無感情、無関心[即座に「わからない」と答える]、根気不足、常同行動【同じ行動・言葉・食べ物を繰り返す】、言葉がわからない
  - 意味性認知症 左脳が侵されると、ものの名前がわからない「天井ってなに?」。右脳が侵されると、なじみのある顔を認識できない。人格変化、行動障害、言葉がわからない
  - 進行性非流暢性失語 発語量の低下、どもる、言い間違える
- ◇嗜銀顆粒性認知症……………頑固で怒りやすい **●は手術で改善する物忘れ ◆は四大認知症です。**

以上、「認知症」には様々な病気があることが、おわかり頂けましたか? 「物忘れがある」⇒「アリセプト服用」または「新たに出たお薬を試してみる」という、単純な図式ではありませんね。 慎重に診断をし、適切な対処を立てることが、患者さんにも、そのご家族にも、「なんとかやっていくため」に大切に役立つのです。 ※裏面もご覧下さい